

2025年6月

CWS JAPAN NEWSLETTER NO.105

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます

NGOのアドミ (バックオフィス)とは、 どんなお仕事？ <後編>

皆さん、こんにちは。コミュニケーション担当の一角です。

『NGOのアドミ (バックオフィス) とは、どんなお仕事？ <前編>』では、アドミのお仕事について、アドミン・ファイナスマネージャーの高松さんにお話を伺いました。さらにアドミ業務について知るために、後編ではアドミン・ファイナンスオフィサーの清川さんにお話を伺います。

▼前編はこちらからお読みいただけます。



NGOのアドミ(バックオフィス)とは、
どんなお仕事？ <前編>

from  **CWS JAPAN**
Church World Service

【用語についての補足】

アドミ：

Administration (アドミニストレーション) の略。総務、人事、経理などの業務を含み、「バックオフィス」とも言われる。

アドミン：

上記の役割を担う、役職名の一部として用いています。

ーアドミの業務内容について教えてください

ひとことでまとめると総務・会計業務を担当しています。具体的には、帳簿管理や国内外の資金送金手続き、経費精算などの会計業務に加え、寄付者管理、給与関係データ作成・管理などの総務・労務業務も担当しています。少人数のチームで運営しているため、日々柔軟にさまざまな業務に対応する必要があります。

ー1日のお仕事の流れを教えてください

日によって業務は異なりますが、例として挙げると以下ようになります。

- 9:00- メールチェック・総務関連の対応
- 10:00- オンラインミーティングや
問い合わせ対応
- 11:00- 口座の出入金管理、請求書等の確認
- 12:00- 昼休憩
- 13:00- 海外への仕向送金・国内の振込
手続きなどの会計業務
- 14:00- 事業支出の確認や会計ソフト
入力作業
- 16:00- 追加業務の対応、翌日の業務整理
- 17:00 退勤

リモートワークのため、スタッフ同士のやり取りはメールが中心で、相談したいことがある場合は、オンラインミーティングを依頼することもあります。



リモートワークのデスク風景。
会計業務に電卓は必須アイテムです。
©CWS JAPAN

――清川さんがNGO職員を目指したきっかけはありますか？

いろいろなきっかけがありますが、特に最初のきっかけになったのは、中村哲さんの活動を描いた『ドクター・サーブー中村哲の15年』を題材にしたミュージカルに参加し、ハンセン病（旧らい病）患者の役を演じたことです。当時13歳だったわたしは、戦争や政治的不安定に加え地理的要因で苦しむ人々がいるという現実と、アフガニスタンという遠い地で強い信念を持って活動する日本人がいることに衝撃を受けました。

この経験がきっかけとなり、世界各国への興味が芽生え、国際協力に対する関心が深まったのかなと感じています。

――どんな時に仕事のやりがいを感じますか？

業務を通じて、団体全体の運営を支える役割を果たしていることにやりがいを感じています。

NGOが社会から信頼を得て活動を継続するためには、コンプライアンス（法令遵守）と透明性の確保が不可欠です。特に、総務・会計業務はその基盤に直結しているため、適切な管理・運営を行うことにより、寄付者や関係者の方々が団体の活動を信頼してくださることに繋がると考えています。

編集後記

アドミ業務に関して理解を深めるべく、2回に渡りアドミ業務に携わるお二人にお話を伺いました。

お二人の話から、「団体の力になりたい、団体全体の運営を支えたい」という想い、そして社会的な信頼を得るためにコンプライアンス遵守の姿勢が、アドミ業務には欠かせないことがわかりました。

また、リモートワークゆえに日本各所に点在し、さらに世界各国の現場を飛び回るメンバーが活躍できるのは、縁の下の力持ちとして支えてくれるお二人の存在があってこそ成り立ちます。

引き続きCWS Japanは、それぞれの専門性や力を活かしながら「災害時に誰一人取り残されることがない社会」を目指して取り組みを続けてまいります。

（文：コミュニケーション担当・
一色あずさ）

「コミュニティ主導の 人道支援の未来」について 考える

CLIP ANNUAL WORKSHOP 2025 に参加してきました

こんにちは、CWS Japanのイノベーション・アドバイザーの打田です。

2025年5月5日から9日にかけて、グアテマラの首都グアテマラシティから車で1時間ほどの古都アンティグアでCommunity-Led Innovation Partnership (以下CLIP) の年次ワークショップが開催されました。今年度はプログラムの最終年度にあたることもあり、各国のパートナー団体が集まり、CLIPの成果と今後の展開について話し合いました。CWS Japanは自身も加盟団体として参加するアジア防災・災害救援ネットワーク (ADRRN) の代表として参加しました。

▼昨年の報告についてはこちらからお読みいただけます



マヤ様式で行われた年次ワークショップ開会の儀式
@ASECSA

CLIPとは？

CLIPは英国政府の支援を受けて実施する2020-2025年のプログラムで、グアテマラ、フィリピン、インドネシア、そして南スーダンの4か国で実施されています。4年間で支援したコミュニティ主導のプロジェクトは100件を超えました。災害や紛争のリスクに晒されるコミュニティが自ら課題を特定し、解決策を考えて実行し、それを維持・発展させること、そのプロセス全体にオーナーシップを持つことを支援してきました。背景には植民地主義的な人道支援のあり方を根本的に変え、当事者に主権を戻したいという参加団体の願いがあります。

イノベーターによる発表と現場視察 | コミュニティ自らが対応する力を持つ という確信

今回のワークショップのハイライトはグアテマラの各地から集まったCLIPプロジェクトのメンバー（わたしたちはイノベーターと呼びます）による発表でした。雨水の有効活用、有機肥料の生産、改良型織機の製造、グリーンハウスの建設など、どれもイノベーターが試行錯誤して改良し、実用化に至ったアイデアです。気候変動による農業・漁業、生活用水、生計への深刻な影響を改めて感じると同時に、外部からの伴走支援さえあれば、コミュニティ自らがこれらの脅威に備え、対応する力を持つという手ごたえを感じました。わたし自身が担当するフィリピンやインドネシアのプロジェクトとの共通点も多く、国を超えた学び合いもさらに広げることができそうです。



CLIPプロジェクトについて発表するイノベーター
©CWS Japan

また、ワークショップ期間中、わたしたちはグアテマラ北部にあるペテン県のとある村を訪問する機会を得ました。メキシコ国境に近い人口200人ほどの村です。朝の時点で気温は39度、車で走ると土煙で周りが見えなくなるほど乾いた大地ですが、雨季に入ると洪水で村が沈んでしまうといわれます。干ばつと洪水は村での生活を厳しいものになっています。

CLIPプロジェクトに取り組むコミュニティのイノベーターたちは村の課題を話し合った末、川に浮かぶティラピアの養殖場を提案し、干ばつでも洪水でも収入源が途絶えない仕組みをつくりました。イノベーターが嬉しそうに見せてくれたティラピアは市場で売れば2ドルになるそうで、その経済的インパクトは明らかでした。

CLIPプロジェクトは災害に耐え忍ぶしか方法がなかったこの村に、新しい考え方や行動様式をもたらしました。小学生の女の子も養殖を手伝う姿を見ましたが、この子が大きくなったとき、村の姿はどう変わっているのか、想像するだけで楽しみにになりました。



養殖中のティラピアの生育を確認する
イノベーターたち @CWS JAPAN

CLIPの価値とは | コミュニティ主導でレジリエンスを高める

ワークショップの後半では、4年間かけてコミュニティと作り上げてきたCLIPの価値を改めて確認したうえで、どう存続し、発展させるかについて熱い議論が交わされました。例えば、数量的には説明できないものの、レジリエンス、その構成要素であるリーダーシップ、社会的繋がり、包摂力などの変化を見える化することの重要性が確認されました。

また、インドネシアやフィリピンでは地方・中央政府との協働事例が増えていることから、国同士の学び合いによる政府との協働方法の研究が必要になることも見えてきました。さらには、欧米ドナーのODA削減のトレンドを踏まえ、グローバルレベルでのアドボカシーや、新興ドナーの開拓について優先度をあげる必要があるとの認識でも一致しました。



グアテマラのパートナーを中心に
CLIPの存続と発展について議論の様子@CWS JAPAN

一週間のワークショップを終え、わたしが帰りの飛行機の中で考えたのは「CLIPに参加することの意味」でした。人道支援における予防的な取り組みは主流とは言えませんし、コミュニティ主導でレジリエンスを高める方法は時間も労力もかかります。それでも、今回グアテマラで目にしたものは、リーダーシップやイノベーションマインドによる不可逆的な変化でした。こうした変化は今後も世界中で拡がり続けると信じていますし、その拡がりを後押しするCLIPのような役割はさらに重要性を増すのではないかと思います。



ワークショップの参加者たち@ASECSA

(文：イノベーション・アドバイザー・
打田郁恵)

世界難民の日に寄せて 一人間としての尊厳を 分かち合う日に

こんにちは。事務局長の小美野です。毎年6月20日は「世界難民の日」です。2000年12月4日の国連総会で決議され、難民の保護と援助に対する世界的な関心を高め、UNHCRを含む国連機関やNGOによる活動に理解と支援を深める日として制定されました。

深刻化する世界の人道危機

今、世界は深刻な人道危機に直面しています。2023年末時点で、紛争や迫害などによって故郷から避難を余儀なくされた人の数は、過去最多の1億1,730万人。その後も日々、その数は増え続け、2024年5月には、1億2,000万人に達しました。これは日本の人口に匹敵する規模です。

しかし、支援の現実には厳しいものがあります。2025年6月に国連人道問題調整事務所（OCHA）が発表した「ハイパープライオリティ・アピール」は、この危機的状況を浮き彫りにしています。世界全体で約180億人が人道支援を必要としているにも関わらず、年の半ばまでに受け取った資金はわずか56億ドル（必要な440億ドルの13%に過ぎません）。

「わたしたちは人間の生存のトライアージを余儀なくされている」ートム・フレッチャー国連事務次長（人道問題担当）兼 緊急援助調整官の言葉は、現在の人道支援が直面している「残酷な数式」の現実を表しています。この状況下で、国連は114万人の最も生命の危険にさらされている人々のみに焦点を絞った290億ドルの支援要請を行わざるを得ない状況にあります。

長期化する難民生活の現状

この世界的な危機の象徴的な例が、アフガニスタンからの難民の状況です。2021年のタリバン政権復帰以降、アフガニスタンの人道状況は急速に悪化し、特に女性と子どもたちが深刻な影響を受けています。最近のパキスタンからの強制送還をはじめ、諸外国に難民として渡った方々の暮らしはとて大変です。ゼロから生活を作り上げるのは母国であって

も並大抵のことではありませんよね。

わたしたちが住むアジア地域においても然りで、例えばインドネシアには現在、1万2千人ほどの難民・庇護希望者がUNHCRに登録されていますが、そのうち36%が女性、64%が男性です。多くはアフガニスタン、ソマリア、ミャンマーから逃れてきた人々で、中には8年から13年もの間、第三国定住を待ち続けている人もいます。

インドネシアは1951年国連難民条約の非署名国であるため、難民に対する正式な保護義務はなく、難民たちは就労が法的に認められておらず、UNHCRやNGOの支援に依存せざるを得ない状況にあります。グループホームなどを出た後に何のサポートもなく放置されることが多く、心理的・感情的に困難な状況に置かれています。

CWSの難民支援活動

CWS Japanをはじめ、世界各地の仲間達はこのような難民に対する支援を日々行っています。その中には一人一人の状況に応じたケースマネジメントを主体とした支援を主軸に、社会のさまざまなアクターと協力しながら効果的な支援方法を模索しています。安全な居住環境の提供、教育機会の確保、また最近注目しているのが経済的自立支援プログラムです。

例えば、スキル向上によって就労可能性を高めるべく、英語能力向上支援や職業訓練機会の提供、基礎教育機会の確保などがあります。また、国境を越えた労働市場とつながることで、場所に制限されない労働機会を創出することができ、オンラインや第三国における就労機会創出も積極的に模索しています。もちろんこれには民間企業との協力関係構築も欠かせません。

最近では、日本のアニメ業界と連携し、難民の方々にアニメーション制作のスキルを提供することで、国境を越えた就労機会を創出しています。参加者の一人は「今まで息ができなかったところに空気を送ってくれたようだ」と語ってくれましたが、「必要とされる機会」がどれだけ大きな希望となっているかを実感します。

▼アニメ×難民支援「Humanitarian Anime 事業」詳細はこちら



【事業進捗報告】

アニメ×難民支援
Humanitarian
Anime事業とは？



世界難民の日に わたしたちができること

「難民」とはその人の人間性を表すものではなく、あくまで現在の「状況」を示しているに過ぎません。彼らからは、「自分たちは社会から見放され、忘れ去られている」という言葉をよく聞きますが、同時に、彼らはわたしたちの幸せを願ってくれています。日本で災害が起きたときには真っ先に日本にいる我々の安否を気遣ってくれる彼らの人間性にはいつも感銘を受けます。

世界難民の日に際し、わたしたちにできることは何でしょうか。それは、まず難民の方々が置かれている現状を知ること、そして彼らが「社会に見放されていない」ということを伝えることではないでしょうか。世界のどこに行こうとも、人間が生きていくためにはコミュニティが必要であり、そのためには人と人のつながりが重要です。関心を持つことで「難民」という「状況」ではなく、その人自身が持つ強み、歴史、夢なども聞いてみるのも良いかもしれません。わたしたちとしても、単なる一時的な援助ではなく、技術習得や就労機会の創出、そして尊厳ある生活の実現を目指す支援モデルが、真の解決策だと信じ、共生社会への道筋を探っていきたいと思っています。

この世界難民の日が、多くの方とつながり、尊厳と希望を共に考えるきっかけとなることを願っています。

(文：事務局長 小美野剛)

さまざまなSNSで 情報をお届けしています

CWS Japanでは各種SNSで、日ごろから情報をお届けしています。お好きな方法で最新情報をぜひチェックしてみてください



各種SNSは
[ここをクリック](#) or
QRコード読み込み

認定NPO法人CWS Japan @Japan_CWS · 14秒
「レインボーカフェ」と「難民の日アートワークカフェ」|6月のコミュニティ・カフェ@大久保/
6月のコミュニティ・カフェ@大久保では、6月に定められた記念イベントに合わせた企画を行いました！6月の
[@commucafes2023](#)
のレポート記事を、お届けします👉



認定NPO 法人 CWS Japan

668 1,244 2,084
投稿 フォロワー フォロー中

CWS Japanは国内外で災害対応・防災支援をするNPOです。2011年の東日本大地震を機に、日本での活動を開始しました。

災害時に支援の手が届かず取り残される人々を... 続きを読む

[linktr.ee/cwsj](#)

[@cws_japan](#)



設定

CWSJapan

CWS Japanは国内外で災害対応・防災支援をするNPOです。2011年の東日本大地震を機に、日本での活動を開始しました。

毎週金曜日に団体の活動や職員の想いを載せた記事を配信しています👉

「レインボーカフェ」と「難民の日アートワークカフェ」 6月のコミュニティ・カフェ@大久保

皆さん、こんにちは！CWS Japanの五十嵐望美です。今月のコミュニティ・カフェ@大久保では、6月に定められた記念イベントに合わせた企画を行いました！今月もコミュニティ・カフェ@大久保のレポート記事を、お届けします。

プライドマンスに合わせて レインボーカフェを開催

6月最初のカフェでは、性的マイノリティの権利啓発月間のプライド・マンスに合わせて、「レインボーカフェ～LGBTQIA+×防災～」を開催しました！



ゲストの田中利英さんの活動や発信は、以下からご覧になれます！

田中利英さん：[X\(旧Twitter\)](#)

Success in life :
[X\(旧Twitter\)](#) / [note](#) / [Website](#)

最初に、登壇者や参加者の皆さんの自己紹介から始まり、その後にはグラウンド・ルールを共有し、誰もが安心して話したいことを話すことができるセーフスペースな場であることを確認した上、話題の提供を行いました。



このような意見交換の場では、いつも最初に参加者の皆さんからも自己紹介していただいています！

©CWS JAPAN

そして、そもそも性的マイノリティとはいった人のことなのか？といったところから性の多様性についてお話をしました。それから、これまでの調査から災害時だけでなく日常的に性的マイノリティ当事者が医療や福祉サービスが必要とするような困難な状況に置かれやすい一方で、支援者から受ける偏見・差別によって支援を求めたくても頼ることすら難しい現状について紹介しました。

毎年6月は性的マイノリティ（LGBTQ+ / LGBTQIA+）とされる人々の権利を啓発する月間（プライド・マンス）として、プライドパレードをはじめとして世界各地でさまざまなイベントが開かれている中、コミュニティ・カフェでは今回初めて性的マイノリティをテーマにした企画を行いました。

ゲストに、性的マイノリティ当事者でゲイをオープンにしながら行政書士としての活動やこども・若者支援に取り組まれている田中利英さんをお迎えして行いました。

性的少数者の多くは医療や福祉に頼ることが困難

- ・LGBTQの81%が医療者に自分のセクシュアリティについて安心して伝えることができない
- ・トランス男性・女性の77%が医療サービス利用時に困難を経験し、42%が心身体調が悪くても病院に行けなかった
- ・LGBTQの95%が行政・福祉関係者に自分のセクシュアリティについて安心して伝えることができない
- ・LGBTQの76%が行政・福祉サービス利用時に困難を経験した

アウティング・カミングアウトの強要・制限

差別的な言動

サービス提供拒否

性自認を無視した対応

当日のスライド資料より。
調査のデータを紹介しながら、実体験についてもお話することができました。©CWS JAPAN

当事者にとって周囲に伝えられない・明らかにしたくない状況がある中で、災害時でも安心して支援を求められるようになるためには、日頃から性的マイノリティ当事者がいることを前提とした支援のあり方を考えていくことの大切さを学ぶ機会となりました。



当日は田中さんからさまざまな参考資料をご紹介します！©CWS JAPAN

また、ゲストの田中さんからもご自身の体験や行政書士として事前にどのようなことができるかについてもお話ししていただいたり、参加者の皆さんからもさまざまなケースについてご共有いただきながら、考えていく機会にすることができました。

今回は日頃からアライ※としてこの分野で支援している方もいれば、「これを機にLGBTQIA+について学びたくて…！」という思いで参加いただいた方も多く、会が終わった後もあちこちで会話が續いていて、関心を寄せてくれた様子でした…！！

今後も性的マイノリティをテーマにしたセッションを行うことで、多様性が歓迎される場作りに取り組んでいきたいと思えます。

※アライとは、自分は性的マイノリティ当事者ではないけれど、当事者について理解を深めて、共に連帯・支援する人のことを指します。



レインボーカフェがあった週末には東京でプライドフェス&パレードのイベントも開催され、わたしも行ってきました！©CWS JAPAN

世界難民の日に合わせて アートワークカフェを開催

6月第3週のカフェでは、難民の日に合わせてアートコラージュ作品を作る「世界難民の日：アートワークカフェ」を開催しました！

2025/6/18 アートワーク・カフェ



毎年6月20日は世界難民の日として国連によって制定され、難民が置かれている現状について啓発するさまざまなイベントが開かれています！そこで、わたしたちも日頃から難民とともに場づくりを行っていることからこの日に合わせて何か発信できたらと思い、今回の企画を準備しました。

当日は関わりのある難民申請中の方も含めて外国ルーツの仲間たちにも参加を呼びかけたのですが、あいにく参加することが困難になってしまい、残念ながら不在の中での開催となりました。

色画用紙や材料になりそうなさまざまな雑誌を持ち寄って、そこから気になるものを切り抜き、ペタペタと貼り合わせて、作品を作っていました。切り抜きの作業が難しい方は、折り紙を作って貼られている方もいました。



ご近所のデイサービスの利用者も参加していただきました！©新宿デイサービス

最初は、「難民の日」というテーマがある中で、どういうふうに取り組むのかがわからず、なかなか作業が進まない場面も…。しかし、テーマを気にせず、とりあえず気になったものを一旦切り抜いてみて、あるものから作ってみようと思い、思いのままに切り抜きの作業を始めてみたら、どんどんとアイデアが浮かんで、手を動かすことができるように…！！それも、みなさんとお喋りしながら作業したことで、深く頭で考えずに直感のままに手を動かすことができ、楽しく作ることができました！結果、さまざまな個性溢れる素敵な作品たちが生まれました！！



完成した作品たち！©CWS JAPAN

今年の難民の日のテーマは「難民とともに生きる未来へ、連帯を」ということで、今回参加できなかった仲間たちの思いも組みながら、これからも難民とともにお互いに支え合いながら一緒にこの先の未来を歩いていけるよう、これからも場づくりに取り組んでいけたらと思います。



難民の日の当日には、参加者が作ったコラージュ作品をもとに、コラージュ画像を作り、「難民の日」について発信しました！©CWS JAPAN

7月のカフェ企画のお知らせ

7月のカフェは、通常通り、第1・第3水曜日の営業です。



コミュニティ・カフェ@大久保
多文化・多世代共生のための大人の集場所

日時：毎月第1・3水曜日 13:00-17:00
場所：日本福音ルーテル東京教会
東京都新宿区大久保1-14-14 (JR新大久保駅から徒歩5分)

7月の予定

営業日	イベント企画
7月2日(水) 14:00-15:30	もうひとつのコリアンタウン 新大久保を知る! (参加費無料・事前申込不要)
7月16日(水) 14:00-16:00	癒しのクラフトカフェ (参加費無料・事前申込不要)

※イベントの内容・日程は事前のアナウンスなく変更する可能性がありますのでご了承ください。

最新情報はSNSでお知らせしています!

Facebook / Instagram / X(旧Twitter)

QRコード: COMMUNITYC2023

7月2日のカフェでは、ご近所さんの高麗博物館とのコラボ企画として、「もうひとつのコリアンタウン・新大久保を知る!」を開催します。

今では観光客が集い、大勢の人で賑わう新大久保ですが、2000年代から始まった韓流ブームによってコリアンタウンとして発展してきました。しかし、その歴史は80年代まで遡ることができるそうです…!! そんなコリアンタウン・新大久保のまちの歴史について、「市民がつくる日本とコリア交流の歴史博物館」である高麗博物館からゲストをお迎えし、お話を伺います。

新大久保やコリアンタウンの歴史にご関心のある方はぜひお越しください!



コミュニティ・カフェ@大久保 × 高麗博物館
고려박물관 KOREA MUSEUM

もうひとつのコリアンタウン
新大久保を知る!

日時 2025.7.2(水) 14:00-15:30 会場 日本福音ルーテル東京教会
東京都新宿区大久保1-14-14 (JR新大久保駅から徒歩5分)

参加費無料・事前申込不要

新大久保は2000年代から始まった韓流ブームによってコリアンタウンとして発展してきましたが、その歴史は80年代まで遡ります。そんなコリアンタウン・新大久保のまちの歴史について、ご近所さんの高麗博物館からゲストをお迎えし、お話を伺います!

ゲスト 岩元修一さん、梁裕河(ヤン・ユハ)さん
：高麗博物館 理事、ボランティア
完成した作品たち! ©CWS JAPAN

公益財団法人 ウェスレー財団
Wesley Zaidan

主催：コミュニティ・カフェ@大久保
問い合わせ：CWS Japan 牧 (03-6457-6840、public@cwsjapan.jp)

7月第3週目のカフェでは、「癒しのクラフトカフェ：水引結びの体験」を開催します!

日本で古くから祝い事や贈り物に使われてきた水引には様々な結び方があります。屋内で涼みつつ、おしゃべりしながら、手仕事を一緒に楽しみましょう!

7月も引き続きコミュニティ・カフェ@大久保にお越しください。

(文：プロジェクト・オフィサー

五十嵐望美)

コミュニティ・カフェ@大久保の各種SNSはこちら。

[Facebook](#) / [Instagram](#) / [X\(旧Twitter\)](#)

お知らせ： 事務局長小美野が、 JANICの理事に 就任しました

世界的な社会課題に取り組む日本のNGOを支援する国際協力NGOセンター（JANIC）の理事に、事務局長 小美野がこの度就任いたしました。

新役員体制（2025-2026年度）では、多岐にわたる世代、ジェンダー、専門分野の多様性を強みとし、時代の変化に合わせてながら、セクターを超えグローバルな社会課題の解決に取り組んでいくネットワークを事務局と共に築いてまいります。

国内外で災害対応・防災支援に取り組むCWS Japanは、引き続き災害時に誰一人取り残されることがない社会に向けて活動に取り組んでまいります。

▶ [JANIC新役員体制のお知らせはこちら](#)



皆さまのご理解・ご支援を
心よりお願い申し上げます。

継続的な
寄付

今回のみ
寄付

特定非営利活動法人CWS Japan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：
public@cwsjapan.jp
電話：
03-6457-6840



[CWSJapan](#)



[@Japan_CWS](#)



[cws_japan](#)